

第15回

「いっしょに読もう！」  
新聞コンクール



教育に新聞を

あいらり  
倉方葵梨さん(15)  
＝中津市今津中3年＝



奨励賞

保健体育の夏休みの課題として取り組んだ。課せられたテーマは「国際スポーツ」。選んだ記事は「パリ五輪開幕『平和の祭典』厳戒」（読売新聞2024年7月28日付）。

「なぜ『平和の祭典』と呼ばれているのだろう」と疑問に思ったから。新聞を読んで理解は進んだが、インターネ

ットを使って調べることが補足した。難民選手団など、今まで知らなかったオリンピックの側面が分かったという。記事を読んで自分の考えを書く項目は「うまくできた」が、その後の展開には自信がなかった。意見を聞いた相手は母親、弟、祖父の3人。「いろんな世代に聞けば違った意見がもたらされたから」。狙っていたわけではないので、受賞には驚く。本を読むのは好きだが、言葉にするの

正しい情報 理解深める

ニュースを取るツールに

◇中◇

は苦手。「語彙があまりないので、作文は得意な方ではない」とはにかむ。夕方のテレビニュースで情報を得る。分からないことがあれば親に聞いて理解を深める。好きなジャンルは政治。授業で習ってから興味が出た。日本の政治の激しい動きに関心は高い。世界的なニュースにも興味はあるが、最近の紛争や戦争ばかりで少し寂しい。新聞は興味あるときだけならば開く程度だが、迫力ある見出しに引かれて読むこともある。「新聞は取った方がいいかなと思う。自分の目で読むことが大事かな。テレビで聞くより、文字をじっくり読んだ方が理解できる。地域のことを詳しく載っているから、自分の住んでいる地域について知ることができていい」という。今回ネットで調べて感じたのは「新聞は正しい情報が載っているから、読んでいた方がいいかな」。これからもニュースを取るツールとして付き合いを続けていくつもりだ。(三股秀明)